

INTERVIEW



医療法人梁風会 さきがけホスピタル

いむら じゅん
井村 純 さん

出身地：徳島県阿南市
出身校：阿南共栄病院高等看護学院
勤務年数：1年目
役職：看護部長

1日の流れ

- 08:15 出勤
- 08:30 朝の会（ベッドコントロール）
- 09:00 各種会議（部長会ほか）
- 10:00 事務処理
- 11:00 外来との情報共有
- 12:00 昼休憩
- 13:00 病棟ラウンド
- 15:00 師長会議
- 17:00 終業



具体的には、病棟のベッドコントロールや勤務形態・希望に合わせた看護師の配置や看護師採用や定着促進などの人事業務、また、看護師のスキルアップに向けた人材育成・教育体制の計画などになります。

昨年入職し、看護課長として、病棟での勤務を経験した後、看護部長として勤務しています。仕事の内容は、院内の看護師が働きやすい環境を作るための看護部全体のマネジメントになります。

実は工業高校の出身で、大阪でシステムエンジニアをしていました。退職して地元で地元の精神科病院で採用があると知り就職しました。

最初はボイラー技士の資格を持っていて、施設営繕の採用と思っていたら、准看護師養成校の受験申込書をいただいてそのまま資格取得することとなりました（笑）。その後、看護師の資格も取得し、十五年くらい働きました。もちろん学費は今の奨学金のような支援がありました。

どういう業務をしていますか？
看護師を目指したきっかけは？

岡山に来ることについては

僕の地元は徳島で、奥さんの地元が広島ということもあって、中間地点だからちょうどいいかなという感じです。



さきがけホスピタルを選んだきっかけは?

もともと岡山に来たのは、徳島で働いていた病院で知り合ったサーフィン好きの友人看護師の結婚式に出席した時に、たまたまその子の友達に岡山県精神科医療センターの総務課の方がいたためです。ちょうど病院の拡大があるので採用を募集しているからぜひとと言わせて・・・その後、本当に願書が送られてきたので受けたら採用され十五年働いて、縁が繋がったという感じです（笑）



さきがけホスピタルで何をしたいですか？

現在教育と人材定着が重要であると思っています。ベテランが退職を迎える中で、次世代を担う看護師のキャリア形成に向けた研修制度や意識づけ、中途採用者への教育について行なっていきたいです。

また、定着のため福利厚生として部署横断の交流機会の場を持ちたいと考えていて、今部署横断ワーキンググループで、みんなが使える休憩室の改装を行なっています。

令和5年から「さきがけホスピタル」と改めて、「一人ひとりに役割を」を当院の最上位の理念として掲げています。現在、院内で理念を職員に伝えていくため、看護職を含め各部署で全員の面接を行い、病院の思いと職員の考えていることなど一人ひとりとコミュニケーションをとつています。



さきがけホスピタルは、入院治療を中心とした精神医療を高梁新見地域で提供していく、地域型精神科病院の「さきがけ」を目指して現在取り組みを始めたところです。これからも精神科看護のすばらしさを伝えるとともに、高梁の地で働いてもらえる環境づくりに取り組みたいと考えています。